

## とよなか物語



写真の素敵な冊子を行きつけの理髪店の店主にもらった。店主は歴史や自然、まち歩きに関心があり、散髪中に地元の興味深い話を聞くことができる。名古屋東山の理髪店でも、店主の野鳥や写真などの話に夢中になった。「床屋談義」から得ることが多い。

この冊子は豊中市都市活力部魅力創造課が、この3月に発行したものである。店主が市役所で、私にも1部もらってきてくださった。うれしいことで感謝したい。せっかくなので紹介したい。今号は「まちなかで自然を愛でる」という特集であり、豊中の自然、地形、里山、ホタル、公園、野鳥などがビジュアルで紹介してある。とりわけ注目したのは、「豊中の地形を楽しむ」である。

地形をもとにまちの歴史を見つめる面白さに出会って、大阪の地形をみんなで楽しもうと「大阪高低差学会」を立ち上げた新之介さん。「豊中は起伏に富み、地形散歩が楽しいエリア」と話す豊中の地形の特徴をお聞きし、見どころを歩いてみました。

古代の豊中の土地は森と海でした。千里丘陵の裾野に広がる豊中台地の末端が現在の曽根駅辺り。約6千年前（縄文時代前期）の大阪は、生駒山麓から西側に河内湾と呼ばれる海が広がり、今の服部や庄内地域は海の底。3D地形図を見ると、曽根駅の少し南から始まる大きな高低差が見てとれます。陸地の端が波で削られてできたもので、かつてここから南側は海だったときの名残です。



その後、淀川と大和川の土砂が流れ込んで河内湾が陸地化していくとともに、豊中も全域が陸地となります。稲作が行われるようになる弥生時代の遺跡が、市域北部だけでなく穂積や小曽根でも見つかっています。そして、台地の上に多数の古墳が築かれる時代が訪れます。「豊中に見逃せないのは、古墳の多さ。前方後円墳があるのはヤマト政権とかかわりの深い豪族がいたからだろうと思われまます」と新之介さん。

確かに豊中の地形はおもしろい。となりの吹田でも聞いたことがあるが、高低差がはっきり表われている。千里丘陵や豊中台地などを訪ねてみたい。

(2018年6月9日)